

校外学習の
代わりに！

大洗小・南小(6年生)と幕末と明治の博物館を結ぶ遠隔授業

コロナ渦で校外学習の実施が難しくなり、大洗町立大洗小学校・南小学校(6年生)は、大洗町幕末と明治の博物館と結んだ遠隔授業を7月に実施しました。実施する上での課題点も紹介します。



大洗小児童の学習の様子



博物館から説明する職員



南小児童の学習の様子

大洗町にある2つの小学校では、大洗町幕末と明治の博物館「大洗町埋蔵文化財企画展『弥生島と古墳島～大洗島を取り巻く一千数百年前の物語～』」(7月15日～8月31日)の開催中、校外学習の代わりとして、GIGAスクール構想による児童1人1台のタブレット端末を活用した遠隔授業を実施しました。

子供たちは、大洗町の一本松遺跡から出土した弥生土器片と磯浜古墳群車塚古墳から出土した朝顔型円筒埴輪の破片について、博物館の企画展示室にいる職員から詳しい解説を受けました。手に取った土器が出土した地域の空撮動画(ドローンによる撮影)を視聴し、普段の生活では見ることのできない大洗の遺跡の姿を捉えることができました。また、アンケート機能を利用したクイズに、子供たちのユニークな回答があったり、ズバリ模範解答が飛び出したりしました。子供たちは、自分たちの地域で出土した物から、当時の大洗町に住んでいた人々の生活の様子を豊かに想像していました。

博物館から学ぶ

遠隔授業を実施する上で課題となったこと



土器を観察する児童

- ①町教育委員会の職員が、博物館の企画展示物を利用して、短期間で子供たちに分かりやすい1時間分の授業を組み立てるのが難しかった。
- ②児童1人1台端末に同時配信するため、配信する情報量を軽減する作業に苦労した。授業当日も遠隔授業が止まらないか心配だったが、うまくいった。
- ③児童と職員が双方向でやり取りをするために、音声画像については「Teams」を、児童の意見を職員が一目瞭然に把握するためにアンケート機能を活用した。初めての試みだったので心配だった。



バッタ (撮影 by S・K)

春夏冬話「あきない話」コーナー

「先輩の先生からの教え！」



カエル (撮影 by S・K)

38年間の教員人生で、多くの仕事(校務分掌)に向き合ってきた。新たな仕事に直面するたび、いつも思い出すのは、先輩の先生からの教えである。

4月、校務分掌の発表があり、初めて学年副主任となった。そこで、早速、教務主任の先生に「学年副主任って何をされるんですか」と尋ねた(「自分ならこうする」という考えも持たずに)。すると「簡単だよ、学年主任の仕事をすればいいんだよ」と。(ちょっと驚きながら)「じゃ、学年主任は何をするんですか」と問うと、「生徒指導主事の仕事をすればいいんだよ」と。「じゃ、生徒指導主事は何をするんですか」と問うと、「教務主任の仕事をすればいいんだよ」と。「じゃ、教務主任は何をするんですか」と問うと、「校頭の仕事をすればいいんだよ」と。「じゃ、校頭は何をするんですか」と問うと、「校長の仕事をすればいいんだよ」と。なるほど、「だから校長先生は、よく草むしりをしているんですね、納得。」

一つ先、一つ上の仕事を見たり意識したりすれば、自分が今何をすればよいか、自ずと見えてくるという先輩の教えでした。この後、仕事に向き合う際の私の原点となった。(by I・K)